

想像を広げる読みの力を育てる学習指導の工夫 —書く活動と発表し合う学習を活かして—

南風原町立北丘小学校教諭 金城百枝

I テーマ設定の理由

今日の課題から

国際化・情報
化の氾濫

児童を取り巻く社会は、国際化・情報化が急速に進み、多種多様な情報が氾濫している。また、短縮された言葉が発せられたり、記号化や図式化されたりなど言葉も乱れてきている。その中で児童は、言葉を理解し、想像して読む力が低下していると言われている。

言葉の基礎・基本を学ぶ国語科においては、確かな言葉の力をつけ、思考力や想像する力及び言語感覚を高めていかななくてはならない。そのためには、言葉を大事にした確かな読みの力を育てる学習指導の工夫が必要である。

これまでの実践から

想像して読み
取る力

これまでの授業実践を振り返ると、物語の読みにおいて、生活経験と照らし合わせてイメージさせる学習をしたところ、お互いが教え合い楽しく学習活動をしていた。しかし、登場人物の気持ちを想像して読み取る力をつけることが不十分であった。それは、読みの力を育てるために言葉から想像して読み取る力をつける指導の工夫が足りなかった。

一斉型
受動的

また、教師対児童の対一の応答で自己表現(自己主張)のできる特定の子を中心に授業が進んでいく一斉型の授業形態が多く、発表し合うことが少なかった。そのため、児童は受動的になり良い考えを持っていても発表ができなかったり、多くの児童の考えを引き出してあげたりすることが難しかった。それは、児童一人一人の持っている言葉や読みの力は、それぞれ異なり個々の良さを見つけ生かす十分な指導ができていなかったためだと考える。

本研究において

書く活動

本研究では、物語の読みにおいて、言葉に着目し想像を広げる読みの力を育てるために、書く活動を活かして自分の思いや考えを発表し合う学習を工夫していきたい。

書く活動では、文章の中の大事な言葉に気をつけて読み取ったことを、書き込みワークシート等にかかせる。そうすることで場面の様子や登場人物の気持ちを想像し読み取ることができるようになることが期待できる。

発表し合う学
習

発表し合う学習では、自分の書いたことをもとに発表し合うことで、新たに気づいたり、自分の考えを深めたりすることができ想像を広げることが期待できる。

以上のことから、書く活動と発表し合う学習を活かして、想像を広げる読みの力を育てることができるのではないかと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

物語の読みにおいて、次のような工夫をすれば、想像を広げる読みの力を育てることができるであろう。

- (1) 場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、自分なりの思いや考えを明確にするために文章の中の大事な言葉に着目して書く活動をさせる。
- (2) 想像を広げる読みができるようにするために、書いたことをもとに個々の読み取った思いや考えを発表し合う学習をさせる。

2 検証計画

国語学習に対する意識調査のアンケートを検証授業前後の6月と7月に行い、変容をみる。

検証授業を7時間行う。書く活動において、文章の中の大事な言葉に気をつけて想像しまとめることができているかを毎時間の書き込みワークシートをもとに検証していく。

発表し合う学習では、「想像を広げながら読むことができたか。」を児童の発表の観察や書き込みワークシートの記述、ふり返しカードなどをもとに検証する。

	検証の場面	検証の観点	検証の方法
①検証授業 7時間	・書く活動 ・発表	①場面の様子や登場人物の気持ちについて、文章の中の大事な言葉に気をつけて、自分の思いや考えを明確に持つことができたか。 ②書いたことをもとに、個々の思いや考えを発表し合う学習をし、想像を広げる読みができたか。	・書き込みワークシートの内容 ・振り返りカード ・観察
② 授業実践前後のアンケート	事前・事後（6・7月）		・アンケート
	・想像を広げる読みの力を育てるために、書く活動と発表し合う学習は有効であったか。		①・②の結果より

Ⅲ 研究内容

1 想像を広げる読みについて

(1) 読みの指導での想像力

「読み」には、知識を得るための読みと、心を豊かにする読みがある。読みの学習においては、文章に表現されていることへの理解に終わらず、立ち止まって語や文章に対話したり想像したりすることで物語のおもしろさを味わうことができ、豊かな読みへとつながることができる。

文学教材においては、場面の様子や人物の気持ちなど想像して理解し、想像力や思考力を育てることができる。

しかし、想像をする時は、実際に見え（聞いたことのない、経験していないものから想像することは難しい。その時行っている行為は、「イメージ化の読み」である。このイメージ化の読みを藤田伸一は、イメージ形成力（想像力）として、今までの生活経験が、読みに影響してくること、さらに言葉からイメージする読みとしている。

このことから、想像とは、入ってきた情報を体験や経験で得た知をつないで実際に、見えない物事を多分こういうものだろうと頭の中でつないで考えていく活動である。読んで理解することは、読み手が語彙知識や経験から得た知を使って推論したり、語と語を関係づけたりすることで文と文の間を埋め、抽象的に書かれていることを具体的にこのような様子だったのではないかと想像し心の中に作り上げていくことである。このことを「想像」と捉える。（図1）

イメージ化の読み

つないで考えて

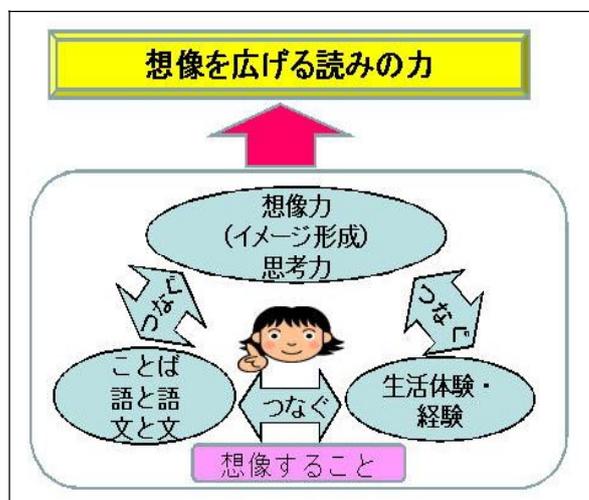


図1 想像を広げる読み

(2) 学習指導要領における「想像を広げる読みの力」

文章を正確に読むと同時に、文章表現から想像を広げて読むことは、大切な能力の一つである。

学習指導要領の「想像的に読むこと」に関する目標や指導内容は、下記（資料1）に示した能力を育てることが求められている。

そこで、児童が物語を読み作品の中の描写や叙述を手がかりに文章、文、言葉に着目して、人物の気持ちや様子、情景を具体的に思い描きその世界を楽しみ、児童に想像を広げる読みの力を育てることは重要である。

国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目 標	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
内 容	<p>ア 易しい読み物に興味を持ち、読むこと。</p> <p>イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。</p> <p>ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。</p> <p>エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。</p>	<p>ア いろいろな読み物に興味を持ち、読むこと。</p> <p>イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。</p> <p>ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。</p> <p>エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと</p> <p>カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。</p>	<p>ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。</p> <p>イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。</p> <p>ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。</p> <p>エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。</p> <p>オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。</p>

資料1 読むことの目標と指導内容

(3) 低学年における想像を広げる読みの力

想像を広げる

低学年で「想像を広げる」ためには、教材を読んで自由に想像することが大切である。低学年の読みにおいては、場面の様子や登場人物の気持ちの想像について、想像を広げながら読む力をつけることが肝要である。

「場面の様子について想像を広げる」とは、作品の中の情景描写を話の順序をとらえ叙述を基に情景を想像したり生活経験・体験をもとに想像したりし、文章や文、言葉からその世界を楽しむことである。

「登場人物の気持ちを中心に想像を広げる」とは、人物の様子や心理・心情・できごとなどから、思い描いていくことである。

想像を広げる
読みの力とは

描写の言葉をできるだけ具象化したり、動作化したり、同化したり、音声化したりしながらはつきりと心に思い描き出していくことが、想像を広げていく読みへとつながっていく。その際、その読み取り方の異なる部分もその根拠や理由をもとに、登場人物の気持ちを中心に一つ一つの語句や表現に注意しながら読むことが必要である。

本研究においては、想像を広げる読みの力とは、「場面の様子を時間や話の展開の順序をもとに想像を広げること」「登場人物の気持ちを中心に想像を広げること」と捉える。このような読みの力を身につけていくことは、読む楽しさやおもしろさを実感し内容を理解し豊かな読みをしていく上で意義がある。

2 書く活動について

自分の考えを
明確にする

(1) 書くことの重要性

物語を読む学習での書く活動においては、学習課題を解決したり目的を持って読んだり表現したりする学習過程の中に、重点的・効果的に位置づける必要がある。文や文章に対話する書く活動は、自分の考えをもつために、欠くことのできない活動である。

理解したことは、表現することによって完結する。読んで理解したり考えたり、考えたことを書くことで自分の読みや考えが明確になり、確かさや深まりへと結びつく。よって読むことにおける書く活動は、自分の考えを確かにする大事な活動である。

(2) 書く活動例について

書く活動は、一人一人の児童が自分なりの学習ができる個人的な活動である。物語を読む授業の中に書く活動を取り入れることによって、読んだ作品と自分との関わりを重視し、自分の考えを明確にする。読んで理解したり考えたりしたことを書くことにより自分の思いや考えを自覚することができ明確にすることができる。さらに、発表する段階において、自分なりの考えをもつことに自信を得ることもでき効果的な読みができる。その読みの学習における書く活動例を挙げる（表1）。

表1 読みの学習における書く活動例

書く活動例	内容
視写	・文や文章を見てそのまま書き写すこと。表現の優れている文や文章を正しく書き写すことによって自分の表現にも活かせる。また、正しい表記の仕方や、文と文との接続にも気づかせることができる。
サイドライン	・文章を読みながら「ここが大事である、必要である」と思うところに傍線を引くことで、語句や文の注目し読みを深めることができる。
書き込み	・物語文や説明文などの理解過程において行間やその余白に、言葉や記号を、理解を助けるために書き込む。子どもの主体的な読みおよび読みの個別化を重視しながら、文章を深く正確に読み取ることができる。
感想を書く	・感想を書かせることで読みが深まるとともに、自分の思いや考えをまとめることができる。
吹き出し	・想像した心理・心情を、登場人物に語らせながら読む学習技術。 作中の人物に、その心理・心情を吹き出させることによって想像豊かに読ませることができ、また読みの興味や意欲を高め、読み深める手がかりができる。
書き換え	・登場人物の立場を代えて、叙述に即した言葉を使って、作り替えをすることで、読み取る場面の内容理解ができたかを確認することができる。
絵を描く	・場面の様子や登場人物の気持ちを読み取るために、場面の展開を絵で表すことができる。
ワークシート	・注目すべき重要な語句や表現を視写させたり、想像した心理や心情についての思いを書いたり、考えや行動の読み取り、感想などをプリント形式に書かせることができる
ノート	・学習の流れやその教材のどこで、何を学んだかがわかる。学びの足跡を残すことができる。

(3) 低学年における書く活動

低学年の指導にあったっては、書くことが役に立つ場を設定することが大切である。

楽しんで表現

低学年の書くことの基本は、「楽しんで表現しようとする」ところにある。物語での「想像を広げる」ために、文章の叙述に即して文章や文・言葉に着目し、イメージを膨らませ想像したことを楽しんで書くことができるような状況を設定する。そうすることによって、児童は書くことの意味を実感し、その実感が書く力を伸ばし想像を広げる読みを支援していくことになる。

(4) 読みの学習での書く活動の工夫

物語文において想像を広げながら読むことの手立てとして、「場面や登場人物の気持ちを中心に」文章の中の大事な言葉に着目し、注意しながら読む力を育てるために次のような工夫を取り入れていく。

サイドライン
書き込み

場面の様子や登場人物の様子について、時間や話の展開の順序をとらえ場面の様子や登場人物の気持ちを中心に一人読みによるサイドラインや書き込みなど書く活動を取り入れる。

書き込みの手
引き

そこで、「書き込みの手引き」(資料2)をもとに、一つ一つの語句や表現に注意しながら大事な言葉に着目して想像を広げさせる。

想像するとき
の手引き

児童は、自分の知識や体験と突き合わせながら、文章を読み進める。読み進めながら、時には、感動し共感し、時には反問し、時にはひとりごとをつぶやきながら考えたことや感想を書き込ませていく。その時の読みは、児童の一人読みであるため個々のよさを見つけ個への指導を図る。また、場面の様子や登場人物の気持ちを想像するとき、どこに着目すればよいかを考えさせるための手立てとして、「想像するときの手引き」(資料3)を活用させていく。

資料2 書き込みの手引き

資料3 想像するときの手引き

3 発表し合う学習について

(1) 発表し合う学習の重要性

言葉を一つ取り上げても、そこから感じることや想像することは、児童一人一人違う。これまでの生活体験が違うのだから感じ方や考え方が違うのも当然である。だからこそ発表し合い交流する意味がある。

児童は、自分の読み取ったことを確認し、自分の読みとは異なった読みと

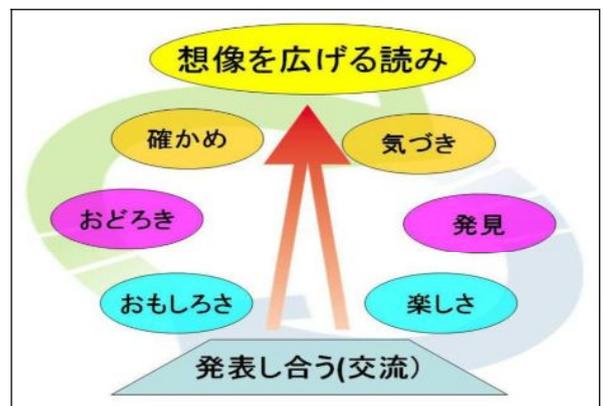


図2 発表し合う学習を通して想像を広げる読みの楽しさ

発表し合う→
読みを広げ
読みを深め

出会うことができる。そこからもう一度作品をふり返り、前より深まった読みができる。
お互いの読みを発表し合うことは、自分の読みをさらに広げ読みを深めるために重要な学習活動である。(図2)

考えをもつ

(2) 発表し合う学習指導の充実と工夫

① 自分の考えをもつ

発表するというのは、課題に対して自分の考えをもつことが大切である。自分の考えを持たずしては、発表はできないし、どんな学習形態を工夫しても実質的な効果は上がらない。児童の「対象へのかかわり方」を工夫していくことが必要である。本研究では、書く活動において自分なりの思いや考えをしっかりと持たせる。

的確に伝える

② 相手を意識し的確に伝えるようと心がける

自分の考えを相手に伝えるためには、意図するところや思いや考えを話の順序を考えながら的確に伝えることが大切である。発表し合う(交流)ということは、自分の考えを一方向的に話をするのではなく、伝えている相手が誰であるのかははっきりさせ発表し合うことにより、交流ができるようになってくると考える。

しっかり聞く

③ 相手の発表をしっかりと聞く

相手の話を注意して聞かなければ話の内容は、理解することはできない。考えをしっかりと聞くということは、まず、自分の考えを持って、自分の考えと相手の話を比べながら聞き、自分の考えをまとめながら聞くということである。

人間関係づくりが基盤

④ 相手のよさを認めてあげる人間関係づくり

発表し合い交流する学習の中には、「話し合う・聞き合う」という関係がある。その関係は、お互いが相手のよさを認めてあげる人間関係がなければ交流は成り立たない。相手のことを分かろうとする気持ちや自分のことを分かってもらおうとする気持ちを持つ雰囲気作りがなければ、よりよい交流は築けない。心から耳を傾け聞いてあげる学級の雰囲気づくりがあれば、心からの発言ができ発表し合う(交流)学習が築ける。学級経営においてのよりよい人間関係づくりが基盤となる。

(3) 低学年における「話す・聞く」の環境づくり

児童が毎日を過ごす教室の環境として、「発表の仕方、話し方、声のものさし」を掲示し、環境を整えていくことは大切である。そこで、資料4のような「話す・聞く」のルールを提示し環境づくりをしていく。そして、常時活用し環境を整えることで、児童の言語能力を育てることができるものとする。

環境づくり



資料4 話し方・聞き方

IV 授業の実際

1 検証授業の実際

- 検証項目
- ◎書く活動から(書き込みワークシート)
 - ①場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、自分の思いや考えをもつことができる。
 - ◎発表し合う学習から(発表・観察・書き込みワークシート)
 - ②書いたことをもとに発表したり友達の発表を聞いたりして想像を広げることができたか。
 - ◎①と②から想像を広げる読みができたか。(書き込みワークシート)

回	月日	校時	検証項目	検証の方法
1 2	6月30日(月)	2・3校時	①場面の様子や登場人物の気持ちを想像し自分の思いや考えをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 発表・観察 ワークシート 自己評価
3 4	7月2日(水)	2・3校時		
5	7月3日(木) 本時	2校時 5 校時	②書いたことをもとに発表したり友達の発表を聞いて想像をすることがとができたか。	
6	7月7日(月)		7回の検証とも検証項目①②を行う。	
7	7月7日(火)	3校時		

2 検証授業本時の指導

- (1) 単元名 ようすや気持ちをそうぞうしながら読もう
- (2) 教材名 雨の日のおさんぽ(物語文) 東京書籍「2年上」
- (3) 単元について
 - ①教材観 (省略)
 - ②児童観 (省略)
 - ③指導観 (省略)
- (4) 単元目標
 - ① 単元の目標
出来事の順序に気をつけて、場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読む。
 - ② 観点別目標
 - 物語に興味を持って、場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読もうとしている。
【興味・関心・態度】
 - 出来事の順序に注意して、人物の行動や会話を読み取ることができる。
【読むアイウエ】
- (5) 単元の指導・評価計画(全13時間)

次	時	児童のめあてと学習活動	ねらい(評価規準) (評価方法)	A 十分満足できる	C 努力を要する児童への手だて
		・事前テスト			
一 次	1	・新出漢字、読替漢字の理解と練習	・新出漢字、読替漢字を知り筆順よく書くことができる。	・字形を整え、筆順に気をつけて書くことができる。	・筆順表を参考に書かせる。
	2	◎「雨の日のおさんぽ」を読み、おもしろかったことや心の残ったことを書く。 ・題名からイメージしたことをウェビングで書く。 ・初発の感想を書く。	・題名読みをし、全文の読み聞かせを聞き初発の感想を書くことができる。 (ワークシート)	・「おもしろかったこと」「散歩について考えたこと」「登場人物について思ったこと」などいろいろな観点から感想を持つことができる。	・「おもしろかったこと」「散歩について考えたこと」「登場人物について思ったこと」などの観点で自分の体験と合わせて焦点化して自由な感じ方で感想を書かせる。
二 次	4 検証 ①	◎おばあちゃんがどんな人で「ぼく」が雨降りをどんな気持ちで待っていたか考える。 ・人物像や気持ちを表すことばに注意しながら一の場面を読む。 ・一人読みで、散歩好きのおばあちゃんたちの様子や雨降りを心待ちにする「ぼく」の気持ちについて書き込みをする。	・おばあちゃんの人物像や雨降りを待ちわびる「ぼく」の気持ちを想像しながら読み取ることができる。 (書き込みワークシート ・発表・観察・ふり返りカード)	・おばあちゃんやルーカスの散歩好きの様子が表れた表現に着目し、散歩にだけかけたいという思いをとらえることができる。	・読み取ったことをうまく表現できずにいる児童には、対話を通して言葉をつないでやるようにする。
	5 検証 ②	・読み取ったことを、発表し合う。			
三 次	6 検	◎さんぽをしながら「ぼく」がしたこと読み取り、そのとき「ぼく」が思ったことを想像する。 ・二の場面①で「ぼく」がしたこと	・雨の日の生き物たちの様子を読み取り、そのときの「ぼく」の気持ちを想像することができる。	・「ぼく」が散歩しながらしたことや見たことを順序よくたどりながら、場面や人物	・虫をすくい上げる動作化をしながら「ぼく」の気持ちをつぶやかせる。ま

証 ③ ・ 7 検 証 ④	や見たことに注意しながら読む。 ・一人読みで雨の日の生き物たちの様子やそれに対する「ぼく」の気持ちについて書き込みをする。 ・読み取ったことを、発表し合う。	きる。 〈書き込みワークシート・発表・観察・ふり 返りカード〉	の気持ちを豊かに想像することができる。	た、「パチャパチャ歩いた」「そっと下るしてやった」「ゴボゴボッ」等の表現について自分の経験を想起させながら様子や気持ちを丁寧に読み取らせる。
8 本 時 検 証 ⑤	◎川や森の様子を想像しさんぼをしているときの「ぼく」たちの気持ちを想像する。 ・二の場面②を読む。 ・一人読みで、川や森の様子、そこを歩く「ぼく」たちの気持ちを読み取り書き込みをする。 ・読み取ったことを、発表し合う。	・川の様子や森の道での様子を読み取り雨の日のお散歩を楽しむ「ぼく」たちの気持ちを想像することができる。 〈書き込みワークシート・発表・観察・ふり返りカード〉	・「ぼく」たちが、歩いた順序がわかり周りの様子に驚いたり、おもしろかったりしている。	・散歩の様子を思い浮かべることができるよう音読をさせる。
9 検 証 ⑥	◎森でいなくなったルーカスが見つかったときの「ぼく」の気持ちと、帰り道きのこを見つけた「ぼく」の気持ちを想像する。 ・二の場面③を読む。 ・一人読みで、森の中の様子や帰り道での様子について想像したことを書き込みをする。 ・読み取ったことを、発表し合う。	・ルーカスの様子や帰り道での様子から、雨の日のお散歩を楽しむ「ぼく」の気持ちを想像することができる。 〈書き込みワークシート・発表・観察・ふり返りカード〉	・ルーカスの楽しげな様子や思いがけなくきのこのおみやげを手に入れる様子など、場面の様子や人物の気持ちを豊かに想像することができる。	・ルーカスを心配したり、きのこを見つけて喜んだり、気持ちに変化のある場面なので、一人一人の読み取りを励ますようにする。
10 検 証 ⑦	◎家に帰ってからママやパパ、おじいちゃんの家族の気持ちを想像する。 ・三の場面を読む。 ・家族のそれぞれが言ったことやしたことについて読み取り、想像したことを書き込む。 ・読み取ったことを、発表し合う。	・家に帰ってからママやパパ、おじいちゃんの家族の気持ちを想像することができる。 〈書き込みワークシート・発表・観察・ふり返りカード〉	・家族のそれぞれの気持ちを豊かに想像することができる。	・言ったことやしたことに関係を引かせ特に気持ちの表れている会話に着目させる。
三 次 12	◎「ぼく」になったつもりで散歩に行ったときの話をまとめる。 ・「ぼく」がしたこと見たこと、思ったことを整理する。 ・まとめたことを発表し合う。 ・題名読みのウェビング ・雨に関する本を探して読む。	・「ぼく」になったつもりで散歩に行ったときの話をし、物語の世界を楽しむ。 〈ワークシート・発表・観察・ふり返りカード〉	・散歩の時の様子が聞き手にも伝わるように観点にそってまとめ発表することができる。	・うまく話すことができに児童には教師が家族の役になって問いかけ、ことばを引き出すようにする。
13	・事後テスト			

3 本時の授業

(1) 本時のねらい

- ・川の様子や森の道での様子を読み取り、雨の日のお散歩を楽しむ「ぼく」たちの気持ちを想像することができる。

(2) 本時の授業仮説

- ① 川や森の様子や登場人物の気持ちを想像して書き込みをすることによって、自分の思いや考えを持たせることができるであろう。
- ② 書いたことをもとに発表し合うことによって、自分の考えや想像を広げる読みができるであろう。

- #### (3) 準備
- 拡大教材文、人物フラッシュカード、フラッシュカード、ノート（児童用）
ふり返りカード

(4) 本時の展開<8/13>

過程	学習活動	指導の留意点・教師に支援	○個への手立て ★授業仮説の検証 ☆本時の評価
つかむ	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> めあて 川や森のようすや、さんぽをしているときの「ぼく」たちの気持ちをそうぞうしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 心待ちにしていた雨の日のお散歩にやっと出かけたことや、そこで出会った生き物たちの様子を思い出させる。 この場面の②を学習することをおさえる。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 音読をする。 3 一人読み 各自一人読みをし書き込みをする。  <ul style="list-style-type: none"> 4 発表し合う（交流） 音読をする 場面の様子を発表する。  <ul style="list-style-type: none"> 「ぼく」の気持ちを発表する。 川や森の様子を見ながらさんぽした「ぼく」たちは、どんな気持ちだったか。みんなとの話し合いを終わって想像したことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き込みのてびきを使って書き方の確認する 様子を思い浮かべながら思ったことや考えたことを書き込み用ワークシートに書かせる。 机間指導をして個々への指導をする。 いつもより速度の増した川に対する驚き。 ぬかるんだ地面の感触。 雨にぬれた木の上を歩く緊張感。 雨の日に立ちこめる「いいにおい」 「ぼく」おばあちゃん・ルーカスの気持ちを考える。 みんなとの話し合いから気づいたことを思い出しながら想像したことを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「はい水こう→川→森のみち」と歩いてきた順を意識させる。 ○さんぽの様子を思い浮かべることができるよう音読をしっかりさせる。 ★場面の様子や登場人物の行動などから想像を働かせてイメージした自分なりの思いや考えを書き込むことができたか。（検証①書き込みシート） ★場面の様子や登場人物の気持ちなどから想像を働かせてイメージした自分なりの思いや考えを発表し合うことによって想像を広げる読みができたか。（検証②発表・書き込み・ワークシート） ☆川や森の様子を読み取り、雨の日のさんぽを楽しむ「ぼく」たちの気持ちを想像することができたか。（ワークシート・観察・発言）
まとめ	5 ふり返しカードを書く。 ・次時予告	<ul style="list-style-type: none"> 想像の広がりを受けてあげる。 	

4 授業仮説の検証

授業仮説について、学級全体の評価をもとに考察する。表2は、書き込みワークシートよりまとめたものである。

表2 学級全体の想像を広げる読みの評価(書き込みワークシートより)

	検証の観点	評価				検証の方法	検証の結果
		十分満足できる	満足できる	やや努力を要す	努力を要す		
書く活動	①自分の思いや考えをもつことができる。	21% (6人)	57% (16人)	18% (5人)	4% (1人)	・書き込み ワークシート	78% (22人)
発表し合う	②想像を広げることができたか。	25% (7人)	68% (19人)	7% (2人)	0% (0人)	・書き込み ワークシート	93% (26人)

めあてに即した視点をもった指導の工夫個別指導

(1) 場面の様子や登場人物の気持ちを読み取り自分の思いや考えをもつことができたか。

表2より書く活動において、「自分の思いや考えをもつことができたか」については、「十分満足できた」または、「満足できた」児童は、78% (22人)であることが分かった。また、やや努力を要する以下の児童が22%(6人)いることも分かった。

やや努力を要する以下の児童の書き込みワークシートを見てみると、自分の思いや考えを書くのではなく、文脈だけを読み、その「お尋ね文」を書いている児童、一人読みで自分の思いや考えを書けない児童がいることが分かった。

それは、文章の読みや語彙、場面の理解のさせ方の指導や想像を広げて書く方法の指導が十分ではなかった。

そこで、読みの文章の理解をしっかりとさせること、書き込みの仕方を学ばせることをし、めあてに即した視点をもった指導の工夫や個別指導をしていく必要がある。

(2) 書いたことをもとに自分の思いや考えを発表したり友達の発表を聞いたりして想像を広げることができたか。

表2より「書いたことをもとに発表し合うことで想像の広がりがあったか」について見ると、「十分満足できた」または、「満足できた」児童は、93%(26人)になった。一人読みでの読み取りより増えている。また、努力を要する児童がいなくなったことが分かった。

表3は、児童の書き込みワークシートのようにすから見た想像の広がりを表したものである。○印は、児童が一人読みによる「自分の思いや考え」の書き込みである。★印は全体での発表し合う学習後、新たに気づいたことや分かったことを想像の広がりとして赤ペンで付け加えたものである。一人学びの書く活動で自分の思いや考えをもつことが十分できなかった児童も、発表し合うことで想像を広げることができたのではないかと考えられる。

学習のめあてに即した場面で立ち止まり

しかし、本時の検証授業では、学習過程のまとめの段階で気づいたことや分かったことを付け加えさせたため、最後の部分に集中して多く書かれていた。そこで、学習のめあてに即した場面で立ち止まり、確認しながら想像の広がりを書かせることが必要であった。

表3 児童の書き込みワークシートより

本文	⑭ルーカスが、つなをひっぱ森へ行きたいんだ。	⑯森のみちはぬかるみになっていた。ぼくたちは、木の上をあることにした。「すべらないように気をつけてね。」おばあちゃんが言った。	⑰でも、雨の日の森の中は、いいにおいがした
○ 思いや考えの広がりをもつ	★ 想像の広がり ○ ドロに入りたのかな ○ 楽しいからかな。 遊ばたいからだね。 ★ 雨がすきなんだね。 ★ さんぽがすきなんだね。	○ ぬかるみって何？ ★ いっぱいぬれているのかな ★ やわらかいことなんだね。 ○ おばあちゃんは、「ぼく」のことを心配してるんだね。 ★ おばあちゃんは、分かっているんだね。 ★ おばあちゃんいつもおさんぽしているからだね。	○ 雨の日は、なんでにおいがするのかな。 ○ 雨のにおい。○ 木のにおい ○ 草のにおい。○ しぜんのにおい ★ ルーカスの好きなにおい。 ★ きこのにおい。 ★ あめがふったときのしぜんのにおい。

V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前（6月）・事後（7月）の国語意識アンケート、毎時間の書き込みワークシート、毎授業後の自己ふりかえりカード、事前（前学年まとめテスト）・事後テスト（単元テスト）をもとに行う。書き込みワークシート・自己ふりかえりカードの評価は、A 十分満足, B 満足, C やや努力を要す, D 努力を要すの4件法で割合を算出した。

- 1 場面の様子や登場人物の気持ちについて文章の中の大事な言葉に着目して、書き込みをすることは、自分の思いや考えを明確にもつことに有効であったか。

図3は、「書く活動（書き込み）で自分の思いや考えをもつこと」ができたかを書き込みワークシートから評価した7時間の検証結果である。検証1では、満足が50%の達成であったが、検証7では、満足が86%の達成となり、学習を重ねるごとに徐々にできるようになってきたことが分かった。

特に、検証2,3においては、視点を明確にした書く活動を行ったため良い結果が得られた。しかし、検証4では、落ち込みが見られた。これは、場面の全ての文章に書き込みをさせたこと、視点をはっきりさせなかったことで場面把握の指導が十分でなかったためではないかと思われる。

検証5以降は、検証4の反省を踏まえ、学習のめあてにそって視点を明確にし確認を行ったため、再び伸びが見られるようになったと考える。

図4は、事前・事後テストの結果である。「場面の様子を想像して読み取る」について、事前テストでは96%の児童が正答したのに対し、事後の単元テストでは100%の児童が正答した。

「登場人物の気持ちを想像して読み取る」については、事前テストでは、82%の児童が正答し、事後の単元テストでは、100%の児童が気持ちを想像して読み取ることができていた。

めあてに即した視点を明確

それは、検証5以降の学習で、場面の様子や登場人物の気持ちについて書く活動で、学習のめあてに即した視点を明確にしたことで効果があったと考える。

図5は、書く活動において「自分の思いや考えを書き込んだ数の学級平均」を表したものである。平均は、全児童の書き込んだ数を4段階に分け点数化し平均し表した。

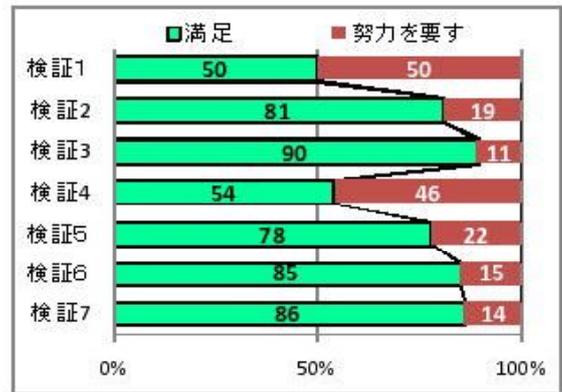


図3 自分の思いや考えをもつ (28人)

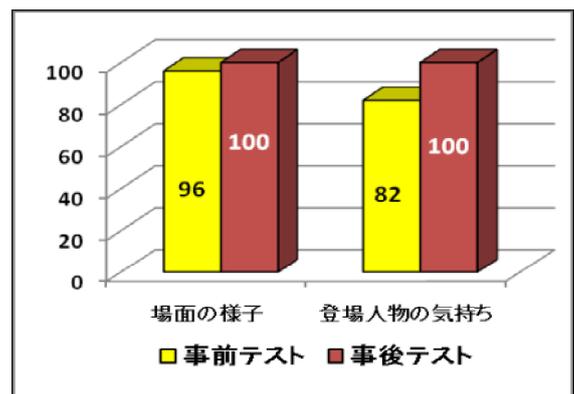


図4 事前・事後テストの結果 (28人)

書き込んだ数の評価基準		
	書き込んだ数	得点
十分満足	5つ以上	3
満足	3～4	2
やや努力	1～2	1
努力要す	0	0

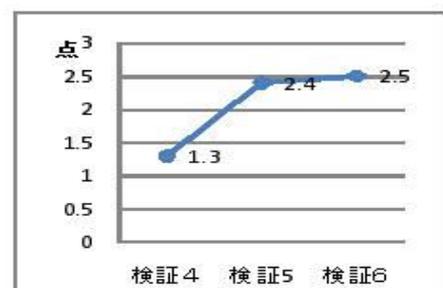


図5 自分の思いや考えを書き込んだ数の平均 (28人)

検証4では、1.3点であった。それが、授業を重ねるごとに書き込みの量が増え、検証6では2.5点に伸びたことが分かった。

これは、書く活動をすることによって、書き込みの仕方が分かっただけでなく自分の思いや考えを明確に持つようになってきたと考えられる。

図6は、授業後の児童の自己振り返りカード「自分の思いや考えをもつことができましたか。」の結果である。

「できた」と答えた児童は、検証4では、85%であったが、検証6では、96%と増えている。

これらのことから、場面の様子や登場人物の気持ちについて文章の中の大事な言葉に着目して書く活動をする事は、自分の思いや考えを明確にもつことに有効であったと考える。

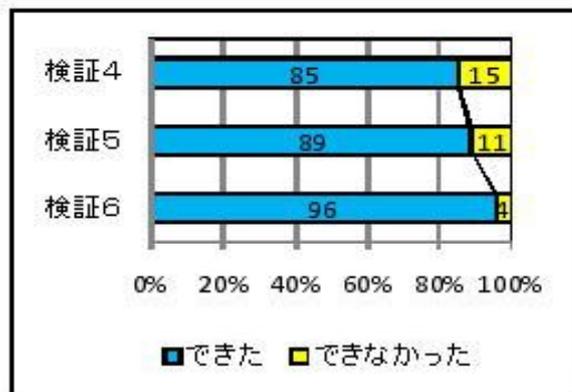


図6 自分の思いや考えをもつことができましたか (28人)

2 書いたことをもとに個々の思いや考えを発表し合う学習は、想像を広げることに有効であったか。

図7は、「書いたことをもとに発表し合い想像を広げる読み」ができたかを書き込みワークシートから評価した結果である。全体的に良い結果が見られるが、検証1と4では、落ち込みがみられた。検証1では、満足と判断される児童は、54%であった。書き込みの仕方が理解できてなく慣れていないため、押さえどころが十分でなく結果も良くなかった。検証4では、場面における生活経験が少なかつたためうまく発表し合う学習をさせることができなかった。

図8は、発表後の「想像の広がりを書き込んだ数の学級平均」である。図3同様に4段階に分け点数化した結果である。検証4の1点から検証6の2.3点に伸びていることが分かる。

これは、発表し合うことによって、友達の発表から新たな気づきや発見が加わって想像を広げる読みができてきたのではないかと考える。

図9は、授業後の児童の自己振り返りカード「みんなの発表を聞いて想像が広がりましたか。」の結果である。検証4では65%だった児童が検証6では86%と増え想像を広げていることが分かる。

資料5は、児童の自己評価の感想の一部である。友達の発表を聞くことによって自分の思いや考えがふくらみ想像を広げていくことができるようになってきたことが見られる。

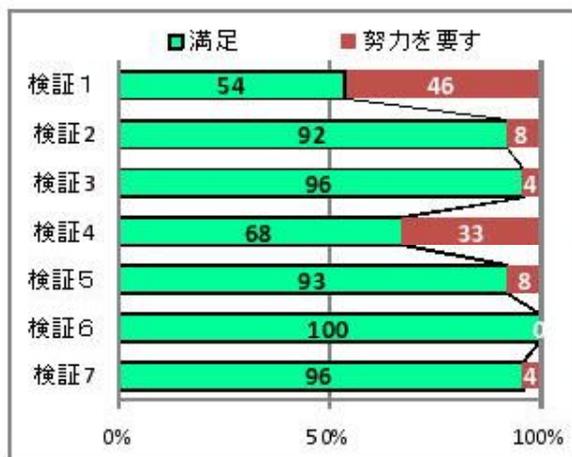


図7 発表し合った後の想像の広がり(28人)

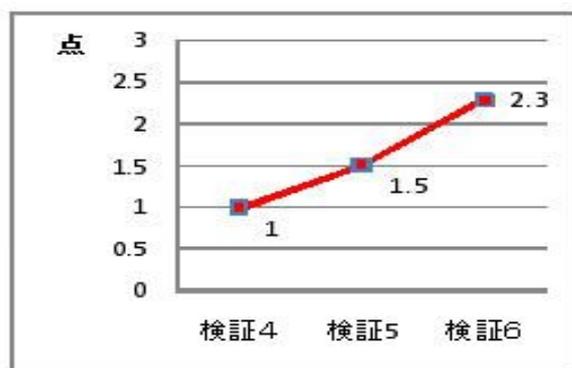
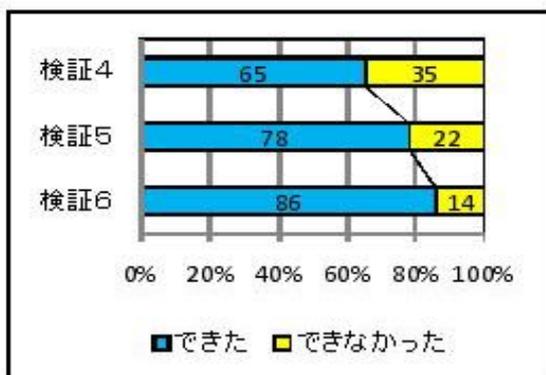


図8 想像の広がりを書き込んだ数の平均(28人)

以上のことから、書く活動を活かして発表し合う学習をすることは、想像を広げる読みの力を育てるために有効であったと考える。



- ・むずかしかったけど、前よりだんだんやり方が分かってきた。
- ・いろんなことを考えながら書き込みができて、発表することもできたのでうれしかった。
- ・書き込みでおたずねはダメで答えを書くのが分かった。
- ・みんながいっぱい発表して、書き加えて分ってきた。

図9 みんなの発表を聞いて想像が広がりましたか(28人)

資料5 児童自己評価より

3 「書く活動」と「発表し合う学習」を行うことは、想像を広げる読みの力を育てることに有効であったか。

表4 題名からの想像の広がり(28人)

	記述数	一人平均	5人以上が書いた記述例																			
学習前	170	6	かえる 24	水たまり 21	かっぱ 19	ぬれる 7	かさ 21	かたつむり 19	長ぐつ 16													
学習終了後	424	15	かえる 23	長ぐつ 17	おさんぼ 15	レインコート 12	はい水こう 7	水たまり 22	かさ 16	てんとう虫 3	かっぱ 11	ぬかるみ 6	かたつむり 19	きのこ 15	小鳥 12	川 9	おもしろい 6	あまぐも 18	かみなり 15	雨 12	たのしい 8	気持ちいい 5

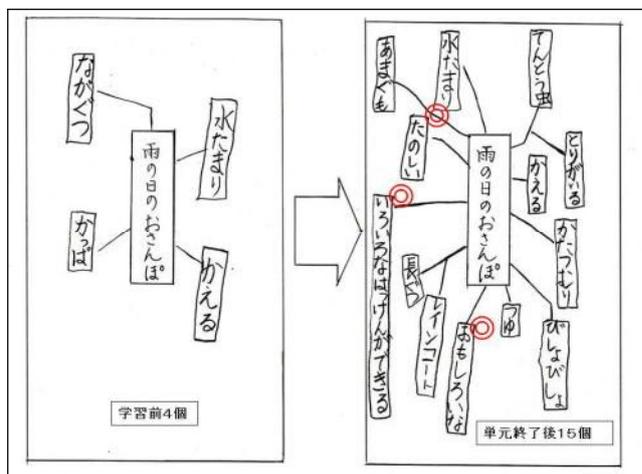
題名読みの想像の広がり

表4は、題名読みの想像の広がり様子である。学習前と単元終了後での5分間に題名の『雨の日のおさんぼ』から想像することについて書かせた。

一人平均の数を見てみると学習前6個と比べて学習後は15個と約2倍になっている。また、想像した言葉の記述例を見てみると学習前では、雨から想像する自分の生活経験に関する言葉である。単元終了後では、主題に関する言葉をもてるようになり作品に対して理解を深め想像を広げる読みができるようになった。

題名読みの変容

資料6は、児童のノートに見る題名読みの変容の様子である。学習前は、4個の想像であったが、単元終了後は、15個に増えている。例えば、学習前の想像は、「水たまり」「ながぐつ」などの自分の生活に関係のある言葉である。ところが、単元終了後は、雨の日は「たのしい」や「おもしろい」「いろいろなはっけんができる」など、その言葉が膨らんできていく。これは、児童があらすじだけでなく想像を広げ主題に迫る読みにまで発展してきている。



資料6 題名からの想像の広がり様子

以上の題名からの想像の広がりや読みの結果と、考察1, 2より書く活動と発表し合う学習を計画的に実践することで、想像を広げる読みの力を育てていくことができると言える。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

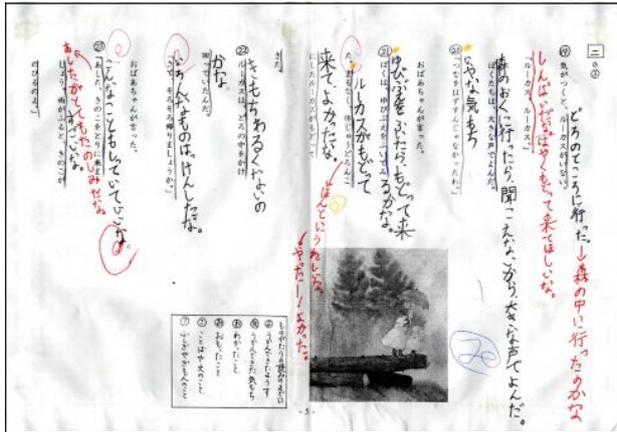
- (1) 書く活動をすることにより、場面の様子や登場人物の気持ちについて文章の中の大事な言葉に着目して、自分の言葉でまとめ自分の思いや考えを明確にもつことに効果があった(V-1)。
- (2) 発表し合う学習を行うことで、自分の思いや考えを確めたり、自分とは違った新たな考えに気づき、想像を広げる読みの力を育てることができるようになった(V-2)。

2 今後の課題

- (1) 低学年における、個に応じた読みの指導の仕方(IV-4(1))。
- (2) 想像を広げる読みの力をつけさせるために、一時間における書く活動と発表し合う学習を取り入れた授業展開の工夫(V-1, 2)。
- (3) 深まりのある発表し合う学習のための発問の仕方と効果的な実践方法。(V-2)。

〈主な参考文献〉

文部省	『小学校学習指導要領解説 国語編』	東洋館出版社	1999年
石田佐久馬編	『文学教材で何をどう学ばせるか①—低学年—』	東洋館出版社	1994年
石田佐久馬著	『文学教材の豊かな読みと教材解釈・イメージ化の読み』	東洋館出版社	1995年
石田佐久馬編	『視写・聴写・書き込み』	東洋館出版社	1992年
藤田慶三編著	『子ども輝く国語科授業読むこと編』	東洋館出版社	2002年
藤田伸一 著	『一人読み・話し合いで「読みの力」を育てる』	学事出版	2006年
井上一郎 編	『実践国語教育研究 285号』 10/11月号	明治図書	2006年
広本典子	『広島市教育センター研究集録第23号』		2004年



資料8 書き込みワークシートの様子

C. 読むこと

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

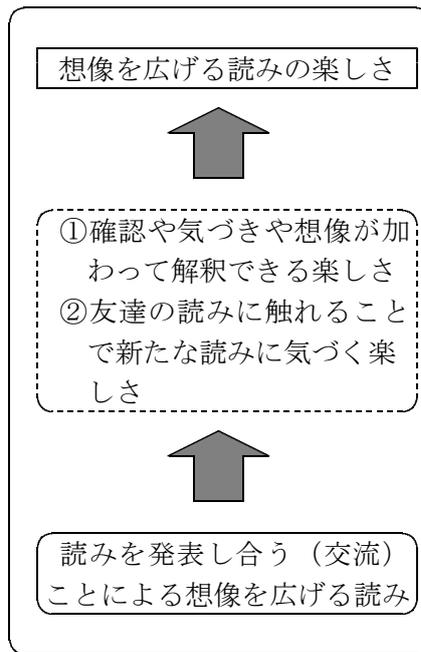
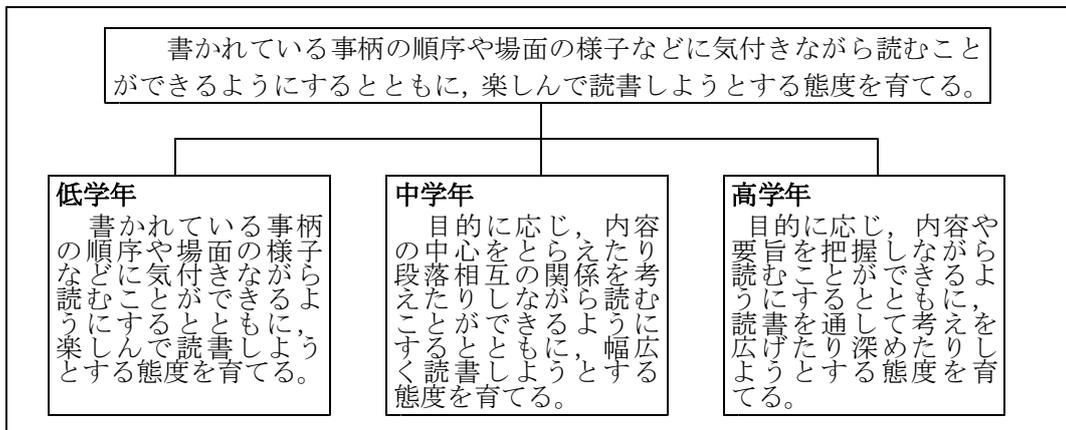


図1 交流を通して想像を広げる読み



低学年	中学年	高学年
<p>ア 易しい読み物に興味を持ち、読むこと。</p> <p>イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。</p> <p>ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。</p> <p>エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。</p>	<p>ア いろいろな読み物に興味を持ち、読むこと。</p> <p>イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。</p> <p>ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読むこと。</p> <p>エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり必要ところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。</p> <p>カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。</p>	<p>ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。</p> <p>イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。</p> <p>ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと</p> <p>エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。</p> <p>オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。</p>

資料2読むことにおける学習内容